

朝六小だより

朝霞市立朝霞第六小学校

児童数 1066名

令和6年11月1日号



清々しく、感動できる教育に

校長 田邊 雅也

運動会、ありがとうございました。

運動会では、久しぶりに徒競走が復活することとなりました。しかし、1000人を超える児童の出走、工事による狭い校庭、のべ2000人もの保護者の入れ替えのある2日間の日程、さらに、天候不順による雨天順延などもあり、かなりご不便をおかけいたしました。その中で、PTAや学校応援団のご協力、地域の方からご指導をいただいた演技、そして、学校運営協議会、朝霞市議会、朝霞市教育委員会、学童・保育園関係者、本校教職員OBの皆様のご来校をいただき、運動会は、大いに盛り上がりました。児童数の増加により、新たにピンク組を加えた5色対抗の運動会は、緑組の優勝で幕を閉じました。勝った負けたで、悲喜交々ありましたが、大勢の皆様の応援のおかげで、子供たちが大きく躍動できた運動会となりました。ありがとうございました。

「誰かのため、何かのため」の気持ち

運動会の閉会式で、「うちの人のため、地域のためにがんばった。」と答えてくれた子がいました。さらに最後の運動会である6年生は、「下級生たちのため、六小のため、来校者のため」という気持ちで、運営を支えてくれました。同時に、PTAや学校応援団の皆様も連携しながら運動会の運営に参加していただきました。当日に至るまで、打ち合わせやリハーサルなど、「子供たちのため、保護者のため、学校のため」と、かなりの時間と労力をかけてくださいました。観覧される保護者の皆様は、だれもが最前列で観覧できるよう、譲り合いをしてくださりました。子供も大人も「誰かのため、何かのため」の気持ちが溢れる運動会だったと思います。

「誰かのため、何かのため」の生活・総合

10月は、生活科・総合的な学習の時間の研究授業が2年生と4年生で行われました。2年生の生活科では、身近にある材料などでおもちゃを作ります。製作したり、遊びのルールを決めたりしながら、試行錯誤を繰り返す学びです。ある学級は、本町保育園の園児の皆さんをお招きし、自作のおもちゃで、どうやって園児と遊ぶことができるかを、話し合いました。その話し合いは、園児に対する思いやりにあふれ、真剣そのものでした。

4年生では、1学期から、黒目川の環境を守っている地域ボランティアの皆さんとの交流し、体験を通して、黒目川について調べ込んできました。2学期は、保護者にもその素晴らしい環境を伝える「川まつり」の開催を企画してきました。地域の方から専門的なフィードバックをいただき、試行錯誤をしてきました。子供たちの黒目川への愛情が溢れ、ボランティアの皆さんも大変喜んでくださいました。「保護者・地域のため、黒目川のため」の気持ちがありました。

「三方よし」を目指した戦略会議

本校は地域の皆様との関わりがたくさんあります。2学期に入ってから、あさか環境市民会議、朝霞市役所、朝霞消防団第5分団、本町保育園をはじめとした市内保育園、彩夏祭・YOSAKOI関係、にんじん生産者等の関係（農協、パティシエ、農園、ご当地ヒーロー）など、大勢の地域の皆様との関わりの中で、「何ができるのか。」を、真剣に考え、議論し、試行錯誤を繰り返す時間が増えました。「誰かのため、何かのため」に、「子供よし、学校よし、保護者・地域よし」の「三方よし」を、どう実現していくかの戦略会議のようにも映ります。皆のウェルビーイング（幸せ）を探究しようとする子供たちに育っています。

清々しく、感動できる教育に

運動会は、どうしても「勝った、負けた」に目がいきがちです。しかし、「友達のため、学級のため、お家の人のため」に考え、挑戦し、全力を尽くした人こそが本当の勝者だと感じています。また、生活科や総合的な学習の時間を中心に、相手のことを思いやり、全体のウェルビーイングを考えながら学ぶことが大切だと思います。

保護者・地域が参加する社会総がかりの教育活動は、教科書の学びをオーセンティック（本物）にさせます。それが、目指す学校像である「自分で・自分から、誰かのため、何かのため」や、「三方よし」といったウェルビーイングの意識につながっています。最後まで試行錯誤する教育活動は、子供たちに、清々しさや、感動を与えています。今後も、皆様のご支援、ご協力をいただきながら、社会総がかりの教育を目指していければ幸いです。